

# 時事新報

第三千六百一十一號  
明治廿六年三月廿四日 (庚申)  
舊曆癸巳二月廿七日  
日 出 午前五時四十分  
入 午後五時五十分  
月 出 午前九時三十分  
入 午後九時三十分  
年 出 午前九時三十分  
入 午後九時三十分  
(西曆一千八百九十三年)

## 時事新報の實業論

我々開國既に四十年殊に王政維新以來は専ら西洋の文明主義に従ひ百般の國事面目を改めて新日本の名を成すに至りし程の大業なれども其面目を改めて新日本の名を成すには政治法律學問教育等精神上の事にして實業の區域には見る可きもの甚だ少なし政體は立憲に變じて帝國議會を開き紛れもなき文明の政を行ひながら商工業の社會は今尚ほ之を舊時の町人職人に一任し士流學者の度外視する所を爲りて實業の實を尠く其間には人物の出るゝあるも其種中の一紅、世間に之を認る者なく全面的風光寂々々々として氣を吐かざるを不約合の沙汰なれ之を要するに日本の開國は唯是れ無形精神上の開國にして實物界は今日尙ほ開國の中に在り云ふ可し然るに恐る可きは人事の大勢にして斯くまで人に見捨てられたる實業も近年は次第に發達して外國貿易の如きは最近十年間に二倍半の増加を現はし隨て内國の製造業も之に伴ふて進歩し其勢は頗る熾盛の中既に春陽の發動を催はすもの如し此時に當りて我々工商社會の人は進退を如何す可きや退て襤褸中に盤伏して僅に呼吸せんとするか進で春陽に乗じて羽翼を奮さんとするか其一身の利害のみならず國運の關する所なり我々工商社會の人は開國以來の情勢を體じて實業社會の實を詳にし以て今後の大方針を示さんが爲め實業論一編を草し本月末より十日間おれを時事新報上に掲げて大方の教を乞はんとす

## 時事新報社

### 時事新報

### 行政整理調査委員

本日の紙上に記したる如く政府にては今回内閣及び各省より各一人を擧げて都合十人の調査委員を命じたるに付ては右の委員は行政の各部に就き長短輕重宜しきに隨て調査を遂げ其結果は政府の改革を爲りて實際に發表するものならん行政の整理と云へば何か入りたる事務の如くならざるも取りも直さず政府の改革を行ふものとす随ひて調査委員を命じたるは二事に過ぎず別に面議の事にも非ざる可しと雖も實際に然らざるは何ぞや蓋し政府内部に所謂情實の行はるゝは數年來の如くにして其情實も即ち元員元費の源因なれば情實を其源因にして元員元費を削減し以て到底可なりす從來の有様を見るに政府が情實の爲めに人を任用するときは其人は實際無能のものにて友人の情誼として之を認むるに忍びず即ち元員を見る原因にして既に人を用ふるときは假令元員にても之を給するに情實を以てせざる可らず即ち其結果として元員を生ぜざるを得ず元員元費は互に因果を爲して相伴ふのみならず其元費が無事無難に苦しみ政府の内部に事と求め又これを、余る其結果の外に顯はるゝものは

即ち案文と爲り新事業と爲りてます、無益に人民を煩はし無益に政費を増すは年來の常態にして甚だしきは人の爲めに官を設けたる例へなきに非ず彼の元老院の如き今は既に廢されたれども其設置は老朽の老物を養ふが爲めに外ならずして元員元費の最も著しきものと云はざるを得ず左れば其情實も政府の身中に宿る百病の根源にして元員元費も病候の一に外ならざれば其根源を治せずして病を驅るは難かる可し政府の當局者が今度の改革を思ひ立つに當り本来の大眼目は唯政府の權力を維持して政を行ふの一事に在りて觀念して此一事の爲めには眼を瞑し情を殺して年來の情實を一掃するの覺悟ありや否や果して其覺悟さへあれば改革の前途も顧みなきに非ざれども我輩の見る所にて其覺悟も覺束なしと思はるゝは論より證據、今度の委員の任命に在りて政府の當局には大臣あり又次官あり行政の調査整理は尋常一様の政務のみ其人々を自から責任を負ふて斷行す可き善なるに其責任者の外に故らに委員を出したるは即ち情實の本色を顯はしたるのみならず又その委員十名の中に就て見るも自から情實の内の人なきを期す可らず情實の大臣が情實の委員を命じて其調査の結果も自から知るに足る可し左れば調査委員の設けも之を其設けなきに比すれば幾分の效能あるは疑ふ可らずと雖も之に望むに上々の結果を以てするは不可なり中を望むは未可なり恐らくは中の下を以てして漸く失望を免るゝに近からんかなれども是れとても我輩の能に保證するもの能はざる所なり要するに政府の情實は前述の次第にして一回の調査ぐるらにて効果を見る可きに非ず明年も明年も又その明年も手を代へ品を代へて幾回も調査を遂げ次第に薄皮を剥ぐが如くにして始めて目的を達す可きのみ故に我輩は今回の調査委員に對して最も多量に望むる世人と共に氣を永くして其効果を數年の後に期せんと欲する者なり

## 官報

○文部省令第二號  
市町村立小學校ニ代用スル私立小學校又ハ設立以來三箇年ヲ經過シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ教育上相應ノ成績アリト認めル私立小學校ニ於テ一箇年以上滿額員ノ職ニ在リテ者ハ明治二十四年(十一月)文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第四條第一款ニ準テ取扱フコトヲ得  
明治二十六年三月二十三日 文部大臣井上毅

## 文部省令第二號

市町村立小學校ニ代用スル私立小學校又ハ設立以來三箇年ヲ經過シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ教育上相應ノ成績アリト認めル私立小學校ニ於テ一箇年以上滿額員ノ職ニ在リテ者ハ明治二十四年(十一月)文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第四條第一款ニ準テ取扱フコトヲ得  
明治二十六年三月二十三日 文部大臣井上毅

○東南部  
月 以長夜即ちし  
光輝燦爛午前十時  
北極光 十月の中  
光は毎夜現出す抑  
より成る現象にして  
下より起り或は  
ともありて其兩  
相合したる様は恰  
の長旅となり忽ち  
放棄神諭合の標は  
筆に盡し得べきに  
て返響を有し瑞典  
る多し大鹿、小鹿  
と共に遠隔の空を  
老牛を欺くが如く  
に通り眠犬を驚か  
て驚きの無路、陷  
夏間魚の多き時に  
を爲さるが故に河  
の魚を求めざるべ  
冬は寒風に對し寒  
等人間の飢死を防  
他界と全く交通を  
重圍内に閉居する  
ては重に火を圍み  
辛くも其日を送れ  
て亦睡魔を破る程  
を懸念し去れば又  
に閉ちて出づる途  
社事あるのみ時々  
に面白き事もなけ  
を免れず而して其  
秋の感あり  
四月の中旬よりし  
て諸所に水路の開  
路に小舟を浮べ前  
路に小舟を浮べ前  
立ち都落も爲に景  
りを告げ其後二三  
角力等に日を過し  
せらる五月の中旬  
群衆北上するもの  
る時地に赴き産卵  
の再來と共に  
て曠野を越えし之  
日に比すれば諸  
設計は亦決断以下

## 文部省令第四號

○文部省令第四號  
明治二十三年(五月)警察令第十一號遊技場取締規則中左ノ通改正ス  
明治二十五年三月二十三日 警視總監岡田資實

## 警察令第四號

○警察令第四號  
明治二十三年(五月)警察令第十一號遊技場取締規則中左ノ通改正ス  
明治二十五年三月二十三日 警視總監岡田資實